

# AD ALTIORA SEMPER

神戸市外国語大学図書館報 第24号

## Contents:

乱読もまた愉しからずや

独断的公共図書館事典

特集 変わる図書館 組織変更について

特集 変わる図書館 学術情報係より

特集 変わる図書館 情報メディア係より

2005年度図書館統計

Information

編集後記

## 乱読もまた愉しからずや

近藤 義晴

小学生の頃、学校帰りにはほぼ毎日友達の家へ寄り道していた。いつも屋内に上がり込んではいないが、寄り道の目的の一つは本を読むためであった。お陰様で、当時の小学生向け雑誌（当時は月刊誌）を総なめできた。「少年」や「少年ブック」等に限らず、「少女クラブ」などの少女向けの雑誌にも及ぶ。現在の「少年マガジン」などのように漫画のみではなく、伝記物や科学読み物も含まれる。友達により持っているものが異なるから、渡り歩けばすべての雑誌を見ることができる。こうした雑誌のみ

ならず、「小公女」、「フランダースの犬」、「ジャン・バルジャン」、「トムソーヤの冒険」などの子供向けの世界名作シリーズも涉猟できた。図書室も利用したが、友達に寄りかかるのは一石二鳥でもあった。当方は提供 give するものを持っていないから、本に関しては、当方の一方的享受 take である。これがよくもまあ通用していたものではある。

中学生の頃には、むしろ自宅で種々のジャンルのものを読み漁る。吉川英治の「太閤記」や「宮本武蔵」、三島由紀夫も「潮騒」に始まり「美徳のよるめき」、

谷崎潤一郎の「細雪」にとどまらず「鍵」、室生犀星や石坂洋次郎のもの。はては「寛永三馬術」といった講談ものから大人向け時代ものや婦人向けのものにも手を染める。高校から大学にかけてだろうか。夏目漱石の「心」、「道草」、「虞美人草」や、「ジャン・クリストフ」とか「チボー一家の人々」などの大部な洋物に手をつけたのは。今となっては、「真実一路」やトルストイ物を読んだのがいつ頃か判然としない。

他方、中高生の頃には映画を手当たり次第といってよいほど見た。当時、場末の映画館では、若干古い映画を東宝とか松竹といった系列にとらわれず、3本立て100円以下で適宜見せてくれたから、各社の時代劇から現代ものに至るかなりものを見たことになる。「狂った果実」も白黒で鑑賞。「試験勉強もせずに」と職員室に呼ばれても、素行が改まることはない。洋画をより見るようになるのは大学の頃で、モニカ・ヴィッティにも嵌った。

要は、手当たり次第、特段の目的意識も系統性もなく、定番の文学作品にこだわらずいろいろなものに接してきた。このような行為が直接どのように自分に活きているかも定かではないが、脈絡な

く多様なものに触れたゆえに、狭量さから逃れられているかもしれない。「事実は小説より奇なり」というが、現実に面した際にイマジネーションを膨らます糧にはなっていよう。

図書であれ、その他のメディアを通じてであれ、多種多様なものに触れたら良いじゃないか。何々のために役立つからと、理屈を付けるには及ばない。何に対しても直接自ら接し、浸かれば、何かを感じ、そこから学び取ることができよう。あらかじめ善し悪しや有用無用を評価して、あるいは推薦されたものから従順に入らなくとも。評価が低いとされるものの中に自分だけの大きな宝物を発見できるかもしれない。その場合の方が愉しさも、一入。また事象を複眼的に見て取る力もことさら意識することなく養われるだろう。

図書館や視聴覚ライブラリーは、以上のような意味で宝が眠っている場であり、またそれぞれの人なりの発見を待っている場である。宝の持ち腐れにならないよう。狭い意味での学習の場として使われるだけではもったいない。

(こんどう よしはる 図書館長,本学教授)



カウンター正面にある大きな窓のむこうに、ハナミズキが陽光をうけ、まぶしいくらいの鮮やかな新緑の葉をみせ始めたと思ったら、一転うっとりしい雨がつづく例年にはない今年の五月です。

外大図書館のカウンターに出るようになって一年が過ぎました。それまで、公共図書館に長く勤めてきました。それででしょうか、このたび編集子から「大学図書館と公共図書館を比較し、その違いを述べよ」という課題をあたえられました。さしあたって、公共図書館のことは何とか分かるのですが、大学図書館については、勤めはじめて一年ぐらいで全体が分かるはずもなく、この課題は非常に荷の重いテーマです。

そこで、最近の公共図書館の状況について、まったく個人的な見解を述べることで、あたえられたテーマの答えとさせていただきますと思います。

【検索】最初のカルチャーショックは、カウンターに学生さんが蔵書の有無を尋ねて来られたとき、職員がそれを調べてあげてはいけないということでした。学生さんには、検索用の端末を使って、自分で調べるように案内して下さいと注意されました。

公共図書館では、利用者が蔵書を尋ねてきたら、間髪をいれず、端末をたたいて、市内のどの図書館にあるか、在書架か、貸出中か、貸出中なら、いつ返って

くるかなど、探しておられる本の情報を、詳細に、説明することが通常の対応でした。それも、予約カードを何枚も出され、カウンターが立て込んでいるにもかかわらず、調べさせられることが、よくあったものです。ことほどさように、公共図書館はサービス精神が旺盛であるということでしょうか。

【予約】うん十年前、私が中央図書館に勤め始めた頃、まだ予約サービスはされていませんでした。ある職員の提案で、実験的に、中央所蔵で、貸出中のものだけに限り予約を受けることを始めたとき、職員の間では、きちんと提供できるかどうか、不安な気持ちが強かったように思います。それが今、公共図書館のサービスは、予約をめきにしては語れない時代になりました。市内各区に図書館が設置され、図書館システムがダイナミックに動き始めると、それぞれの図書館がもつ資料が、予約サービスによって、多角的に動き始め、市民に手早く資料が提供されるようになりました。

また、予約が浸透するにつれ、利用者の要求が高まっていく中で、市内の図書館の蔵書だけで要求を満たせなくなるのは当然の帰結であり、全国の図書館から借りることも多々あり、稀に外国から取り寄せることもありました。ただ反面、職員にとっては、毎日、予約の事務処理に追い立てられているという現実もあり、

なんとか、その対策を講じなければならぬのも否めない事実です。

【フリー返却システム】神戸市の図書館システムの完成とともに、それまで市民から要求されていた、いろいろなサービスが実施できるようになりました。その一つが借りた本をどこの図書館に返してもいいというフリー返却システムです。全館オンライン化によって返却処理をどの館でしてもよくなりましたし、本を所蔵館へ戻していくための配送車が、毎日巡回させられるようになったのでこれが可能になりました。

このシステムも予約と同じように、利用が非常に増えてきており、特に配送車の積載能力以上の他館本が返される日が出てくるなど、対応を迫られていたのですが、その後の状況がどうなっているか、気になるところです。

【返却ポスト】閉館時に本を返せる返却ポストは、昔から根強く要求されてきました。しかし、コンピュータ化以前は、貸出券のファイルを名前の五十音順に並べていましたので、返却の手続きは、閉館中に、カウンターでお名前を言っていたかかないと、貸出記録が取り出せませんでした。ですから閉館時に返却できるポストを設けることは困難でした。

コンピュータ化によって、本さえあれば返却処理できるようになったので、ようやく全館に返却ポストが設置され、非常によく利用されています。休館日明けや連休の朝は、ポストとカウンターを、ブックトラックが何度も往復しなければならぬくらい大量の本が返ってくるの

で、その処理作業は大変ハードでした。それと、ポストに返された本は、利用者がいない状態で、図書館が返却処理をするわけですから、時として「返した、返ってない」といったトラブルが起きることもあり、処理モレのないよう神経を使う作業でした。

【督促】うん十年前、一日に100冊も借りられると、「今日は忙しかった」なんてぼやいていたものでした。それが今、貸出は、一日に1000冊を切ることは稀ですし、日曜日は3000冊以上になることもよくありました。これだけ多くの本が借りられると、期限内に返えされないことも多々発生します。そこで、督促の電話が毎日の必須業務になってきます。職員は期日を守っていただくために、時には強い口調なるのですが、それが気に入らんと文句を言う人や、督促リストにあがってきたので、電話をするとあまりにも自信満々に「絶対借りてない」と言い張るので、釈然としないまま引き下がったところ、数日後その人の借りていた本が近所の店から忘れ物として届けられるなど、結構ストレスのたまる仕事でした。

余談ですが、この電話の費用は相当な額にのぼります。どこかで税金の無駄遣いと叩かれそうですが、市民のマナーの問題ですので、悩ましい問題です。

最後になって、愚痴っぽい話になってしまいました。そろそろ、カウンターの交代時間がきたようです。おあとがよろしいようで。

(さか たてき 図書館嘱託職員)

## 図書館の組織変更について

図書館は昨年度まで一つの係でしたが今年度から「学術情報係」と「情報メディア係」の二つの係になりました。

それにともない、利用者の皆さんへのサービスを担当する職員や、皆さんからの色々な要望をお受けする場所が、従来とは変更になっている場合があります。

まず、閲覧室をはじめとする図書館内で、利用者の皆さんが OPAC 端末やオンラインデータベースを利用したり、資料の閲覧や貸出・返却に関連して何か困ったことがありましたら、従来どおり図書館閲覧室内のサービスカウンターへお尋ね下さい。こうしたことは「学術情報係」の職員が担当いたします。係の名称は新しくなりましたが図書館としての業務としては、何ら変わりはないということです。

では、もうひとつの「情報メディア係」は何を担当するかといいますと、皆さんも語学学習をかねて DVD を鑑賞したりされていると思いますが、共同研究棟 2 階の「視聴覚ライブラリー」、それから AV の各教室（第 3 AV 教室は今年から CALL システムに更新されています p.7）などの視聴覚施設の管理・運営にくわえて、CAI 教室、学生用コンピュータ室、図書館ロビー、学生会館の情報処理関連諸設備等、いわゆる学内 LAN に関連しておこる様々なトラブルへの対応ということになります。

ですから、上に例示した諸施設・諸設備について分からないことや尋ねたいことがありましたら、共同研究棟 2 階視聴覚ライブラリー内の「情報メディア係」までお願いします。

このことはハード面に限定されているわけではありませんので、個人アカウントや電子メール、ネットワーク資源の利用についてなどのソフト面での疑問についても気軽にお尋ね下さい。

視聴覚機器へのコンピュータの応用技術の進展をふまえ、窓口の一本化（one stop service）をめざして皆さんの要望にお応えして行きたいと思いますので、お答えが十分に満足していただけないこともあるかと思いますが、よろしくお願いします。

以上、組織の変更については利用者の皆さんには直接には余り大きな影響はないと思いますが、より充実したサービスが出来るように今後も色々な改革や施設・設備の更新などを行っていきたいと考えていますので、皆さんのご理解とご協力をお願いします。

（図書館事務長 牛原）

## 学術情報係(図書館)より

### 入退館システムの導入

3月22日から図書館ロビー入口に入退館システムを設置しました。システムの設定により、学生証・職員証もしくは図書館カードを所持していない人は入館できなくなりました。

これまでは誰もが自由に入出入りできるようになっており、その弊害として学外者の無断利用を招き、受験生等が席を陣取って大学関係者の勉学を妨げたり、あるいは不審者の迷惑行為等を許すことにもつながっていました。

今回システムを設置したことで従来、単発的にしか対処できていなかった無断利用は一掃でき、併せてセキュリティの向上も実現できたと考えています。

導入して三ヶ月余りが経過し、多くの方はゲートの通過には慣れられたことと思いますが、戸惑う向きもありますので、利用の際は次の点にご注意ください。

【入館時】 システムはカードのバーコードを読み込んで入館資格の有無を判断します。カードの読み取り口にバーコードのある側を、ふたをするように接近させてください。読み取り口に入れてしまったり、斜めにすると正しく読み取れません。前の人に続けて入るときは少し間隔をあげ、前の人が通過してフラッパー（開閉部）が閉じてからカードをかざしてください。接近しすぎて入ると誤作動の原因になります。

【退館時】 出るときは、カードは必要ありませんが、フラッパーの近くまで接近しないと開かない仕組みになっています。ゆっくりとフラッパーの近くまでお進みください。

システムの利用にあたっては少しお手間をおかけしますが、設置目的をご理解の上、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

### 太田辰夫先生文庫中国古典籍展示会開催

本学創立60周年記念事業の一環として、6月1日から7日まで図書館ロビーにおいて「太田辰夫先生文庫 中国古典籍展示会」を開催しました。中国語学・中国文学の研究者であり『西遊記』の研究でも著名な太田辰夫博士（元本学名誉教授）の旧蔵にかかる、中国古典籍約300点のうち特に貴重なものを展示するとともに、本学中国学科の今日に至る教育・研究の良き伝統の基礎作りにも多大な貢献をされた博士の経歴・業績について紹介しました。現在、会場の写真と展示パネルは、図書館ホームページで公開しております。



展示資料

（学術情報係長 梶村）

## 情報メディア係(視聴覚ライブラリー)より

### 第3 AV 教室のリニューアル

この春、第3 AV教室にCALLシステム（Computer Assisted Language Learning、コンピュータ支援語学学習システム）が導入されました。従来のAV教室は、マルチメディア機器と学生席にカセットテープレコーダを備えたLLシステムで構成されていますが、第3 AV教室の学生席にはWindows XPのパソコンが設置され、マルチメディア機器とデジタルデータを活用した効果的な語学授業ができる教室として生まれ変わりました。

第3 AV 教室の CALL システムの主な特徴は、以下のとおりです。

ビデオ・DVD・教材提示カメラ（OHC）等の映像を鮮明な MPEG 2 映像に変換して学生席パソコンへ配信。

教卓から配信される映像・音声教材を一斉 REC（レコーディング）が可能。

学生は各自の学習進度やレベルに合わせて個別にレコーディングされた教材を利用可能。

学生側に録音された音声教材の再生スピードコントロールが可能。

教材はサーバに自動蓄積され、学生はサーバへアクセスして、許可された教材を授業や自習で繰り返し利用可能。

音声やテキストの配信された教材をフロッピーディスクもしくは USB メモリーに保存して持ち帰ることが可能。

教師側パソコンからのファイル配布・回収機能や、学生側パソコンからの提出機能。

教卓パソコンと学生席パソコンは学内 LAN へ接続されており、インターネットの閲覧可能。



第3AV 教室を利用した授業の様子

学生用コンピュータ室に内線電話を設置

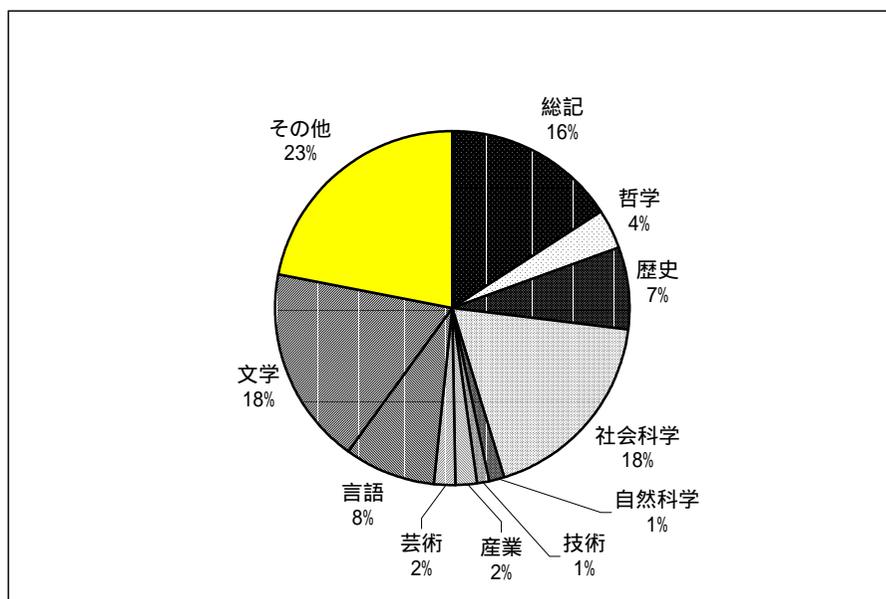
5月より学生用コンピュータ室に内線電話を設置しました。これにより情報メディア係に直接連絡を取ることができます。学生用コンピュータ室内のパソコンにトラブルが発生した場合は、内線電話で情報メディア係にお知らせください。

（情報メディア係長 富尾）

## 2005 年度図書館統計

図書館	蔵書総数		397,435 冊	
	入館者総数		204,728 人	
	貸出総数		45,258 点	
	相互協力	図書貸借	借受冊数	313 冊
			貸出冊数	139 冊
	文献複写	依頼件数	558 件	
		受付件数	100 件	
視聴覚ライブラリー	所蔵総数		5,136 種	
	利用者総数		8,058 人	

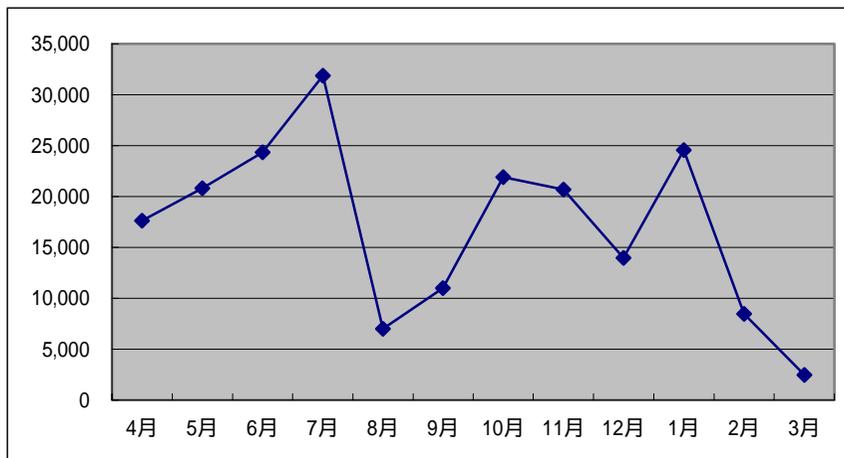
### 図書館 主題別蔵書冊数



(単位:冊)

	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	技術	産業	芸術	言語	文学	その他	総計
和書	40,883	11,620	17,756	49,966	4,643	3,132	5,553	4,228	14,639	30,366	33,403	216,189
洋書	22,118	3,190	11,711	22,414	1,202	1,063	2,593	2,817	18,637	41,783	53,718	181,246
計	63,001	14,810	29,467	72,380	5,845	4,195	8,146	7,045	33,276	72,149	87,121	397,435

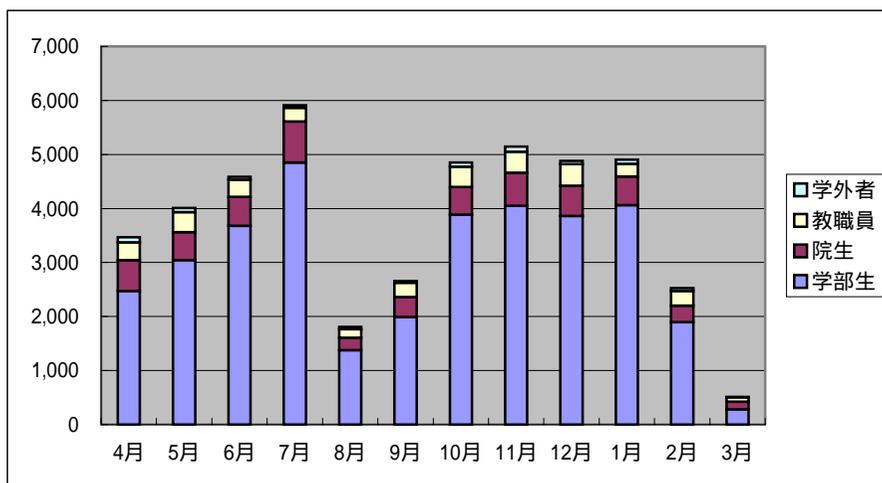
## 図書館 月別入館者数



(単位:人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
17,637	20,819	24,354	31,868	6,998	11,000	21,910	20,687	13,974	24,565	8,454	2,462	204,728

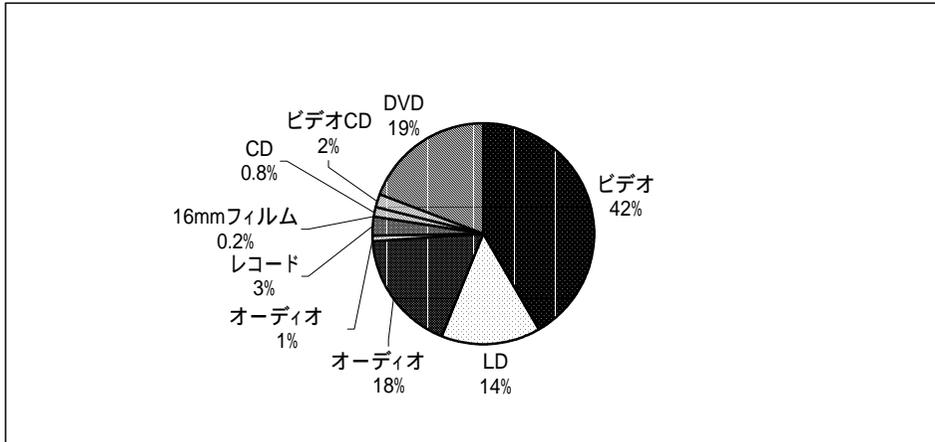
## 図書館 月別貸出冊数



(単位:冊)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
学部生	2,471	3,041	3,678	4,853	1,376	1,991	3,885	4,050	3,860	4,062	1,896	284	35,447
院生	575	522	540	756	233	368	513	614	562	531	306	138	5,658
教職員	330	371	318	253	157	269	378	388	400	235	273	85	3,457
学外者	89	74	50	49	44	27	75	92	61	79	51	5	696
計	3,465	4,008	4,586	5,911	1,810	2,655	4,851	5,144	4,883	4,907	2,526	512	45,258

## 視聴覚ライブラリー 資料種別所蔵点数

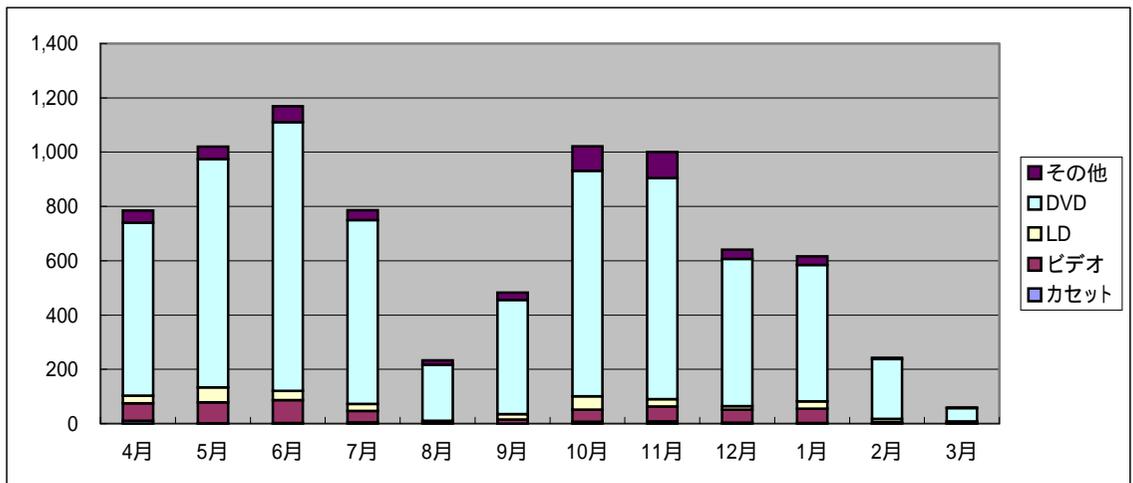


(単位:種)

ビデオ	LD	オーディオ	オーディオ CD	レコード	16mmフィルム	CD	ビデオ CD	DVD	総計
2,142	734	913	55	130	10	74	92	986	5,136

…カセット …オープンリール

## 視聴覚ライブラリー 月別利用者数



(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
カセット	10	1	2	5	0	0	7	8	4	2	1	1	41
ビデオ	65	77	85	42	7	15	45	55	48	53	5	2	499
LD	28	55	34	26	3	20	49	27	13	27	11	5	298
DVD	637	842	990	677	207	421	830	815	542	503	221	49	6,734
その他	45	46	58	36	16	27	91	96	34	31	5	1	486
計	785	1,021	1,169	786	233	483	1,022	1,001	641	616	243	58	8,058

# INFORMATION

## 図書館より

### 夏季休業中の開館時間

夏季休業中の開館日程は次のとおりです。詳しくは、図書館ホームページ、図書館内掲示板の開館カレンダーをご覧ください。また、カウンターには配布用のカレンダーを用意しています。

開館	8/1(火) - 9(水)	9:00 - 19:30
	9/22(金) - 29(金) 集中講義期間	
	8/10(木)	9:00 - 16:30
	8/21(月)-9/20(水)	
9/21(木) 館内整理日	17:00 - 19:30	
閉館	土、日曜日 および祝祭日	
	8/11(金)-18(金) 曝書期間	

### 夏季休業中の長期貸出

夏季休業に伴い長期貸出を行います。

実施期間： 7/10(月) - 9/21(木)

返却期限： 10/6(金)

貸出冊数：

1・2年生 科目等履修生 卒業生	7冊
3・4年生	10冊
院生 研究生	20冊

\* 院生・研究生は9/8(金)以降の貸出分の返却日は4週間後になります。

## 視聴覚ライブラリーより

### 夏季休業中の開室について

夏季休業中に、AV 教室・視聴覚ライブラリー内の機器類の保守点検を行います。開室日・開室時間は、次のとおりとなります。

開室	8/1(火) - 9(水)	9:30 - 16:30
	9/1(金) - 29(金)	
閉室	土、日曜日 および祝祭日	
	8/10(木) - 31(木)	機器類の保守点検および各種教材の整備のため

### 日録(2005年度)

2005

- 4.1 閲覧席増設(40席)
  - 4.7 図書館オリエンテーション(学部・院)
  - 6.1 e-mail 通知サービス開始(ILL)
  - 6.6-6.10 トライやる・ウィーク受け入れ
  - 6.30 図書館報 22号発行
  - 8.2-9.22 一般市民開放実施
  - 8.7 オープンキャンパス図書館開放
  - 8.26 オープンキャンパス図書館開放
  - 9.26 新規データベース導入(3タイトル)
  - 10.11 新規データベース導入(1タイトル)
  - 11.1 新規データベース導入(2タイトル)
  - 11.30 図書館報 23号発行
- 2006
- 3.22 入館システム導入  
貸出手続確認装置更新  
第3 AV 教室更新
  - 3.31 図書館長退任 佐藤晴彦教授

## 編集後記

外国語大学は今年創立60周年を迎えました。その記念日である6月1日には記念講演も開催されましたし、図書館でも、本学ゆかりの太田辰夫先生旧蔵にかかる中国古典籍の展示を行いました。

人間でいえば還暦にあたるわけですが、来年度当初の法人移行を目前にして、インフラ整備が緊急の課題であり、とても楽隠居とはいきません。

より充実した地域開放を視野に入れた入館システムの導入、CALL システムによる第3AV教室の更新にくわえ、今後の新たなサービスにも対応するため組織改正も行いました。

こうした、我々にとってはかなりドラステックと言っているいい変化のなかで、図書館としての地道な活動も、利用者に支障の出ないように、もちろん続けているわけです。

最近、部厚い語学の辞書を抱えている学生さんを見かけることが少なくなりました。電子辞書に取って代わられたという事なのかもしれませんが、例えばある単語を調べ

ていて、その前後や周辺に記載されている単語も併せてみるといったことがどの程度できるものなのか、こうしたプロセスは、館長が巻頭言にいう「乱読」にもある意味で通じるわけで、単に無駄な道草とは言えない何かの間に蓄積されていて、それが思わぬ時に役に立つといったこともあるのではないのでしょうか。

電子辞書だけではありません。手書きのカードや冊子体の文献目録から、OPAC や google を始めとする各種の検索エンジンへと、資料調べは表面的には大きく様変わりしてしまったように見えます。

昨年、新たにスタッフの一員となった、公共図書館出身のヴェテラン司書が「検索」に触れて書いていることは、こうした変化のなかで、逆に大学図書館における情報リテラシーの重要性を物語っているように思われます。

外大図書館にとって本当に価値のあるサービスとは何なのかを常に考えながら、利用者に接していきたいものです。

編集責任者：図書館事務長 牛原秀治

### AD ALTIORA SEMPER No.24 = 神戸市外国語大学図書館報

「AD ALTIORA SEMPER」とはラテン語で「常により高きを求めて」という意味です

編集・発行：神戸市外国語大学図書館

〒651-2187 神戸市西区学園東町9丁目1

TEL: 078-794-8151 / FAX: 078-797-2257

E-MAIL: info@lib.kobe-cufs.ac.jp

URL: <http://www.kobe-cufs.ac.jp/library/>

2006年6月30日発行

発行責任者：図書館長 近藤義晴